

## 平成27年度防災安全教育秋期研修会 浜岡原子力発電所視察報告書

平成27年11月12日

防災安全教育専門部会 副部会長

清水国際高等学校 教諭 木内寿政

今年度の秋期研修会は、2年ぶりに『浜岡原子力発電所』にて開催いたしました。

平成23年3月に起きた『東日本大震災』発生の際、それに伴う『津波』が主な原因となり『福島第一原子力発電所』の『放射能漏れ事故』が起きました。これを受けて当時の菅首相がすぐさま『浜岡原子力発電所』に稼働停止の要請（法的拘束力はない）をしたことで、その時から現在に至るまで『浜岡原発』では自主的に原子炉の活動を停止しております。

今回は、将来の原発再稼働に向けて現在『中部電力』が総力を結集して取り組んでいる『安全対策』を様々な視点から理解・把握することで、我々が正しい知識を持って生徒たちに、今後の電力開発について考えさせるきっかけにしたいという思いで今回の研修会を計画させていただきました。

第1部では『正しい放射能の知識』というテーマのもと、浜松医科大学の山岡先生より講演を開いていただきました。身近な例を用いた大変わかりやすい講義内容で、大変活気ある講演となり、研修会に参加された多くの方々からたくさんの質問が出るなど予定時間を超過するほどの盛況ぶりでした。

第2部では実際に発電施設の敷地内をバスで移動し、数々の安全対策工事の様子を見学しました。まず、発電所敷地へつながるゲートや原子炉建屋敷地に立ち入る際の厳重なチェック体制にいきなり驚かされましたが、原子力施設に対してそれだけの慎重な姿勢を持ち施設を動かしている様子を目の当たりにしました。

見学はまず、『福島第一原発事故』を教訓に、南海トラフ巨大地震でも予想される津波（予想高さ18mを想定）の侵入を防ぐための『防波壁』（22m）を見学しました。国や県が発表した『津波の予想高さ』に対し、新設・増設（高さをプラス4m）し完成した『防波壁』の高さと頑丈さに圧倒されました。工事費は、中部電力が火力発電のために投入する年間の燃料費に相当する額を投じての大規模工事となっているとのことでした。

その後、現在点検中の原子炉5号機建屋内に入り、実際の原子炉圧力容器や中央制御室などを見学しました。普段見ることのできない施設を見学しましたが、たくさんの安全対策工事が原子炉建屋内にも施されておりました。また、点検中にもかかわらず多くの人が機器の操作に関わっており驚きました。

見学の最後には、電源喪失時の対策や緊急用の原子炉冷却用の冷却水の確保など、ありとあらゆる事態を想定した対策に感心しました。

最後に、今回の視察実現に向けて、骨を折っていただきました、菊川南陵高等学校名誉校長平野先生、並びに菊川南陵高等学校教諭野田先生には参加者一同感謝を申し上げたいと思います。

## ●視察内容

- 10:00 浜岡原子力館 到着
- 10:10 講演会（テーマ「正しい放射線の知識」）  
講師 浜松医科大学医学部医学科地域医療学講座 特任教授 山岡 泰治 氏
- 11:40 発電所概要説明
- 11:50 原子力館内 見学（展望台、実物大原子炉模型・防波壁模型）
- 12:30 昼食
- 13:00 発電所構内 見学
- ・安全性向上対策工事  
（防波壁、海水取水設備、緊急時ガスタービン発電機等）
  - ・5号機見学者ギャラリー
  - ・緊急時対策所
  - ・研修センター
- 15:10 質疑応答
- 15:20 浜岡原子力館 出発→掛川駅・菊川駅 到着